

## 50年という月日

長谷部 清

日本分析化学会北海道支部が発足して、もう 50 年とは驚きであり、時の経つのがとても早く感じられる。私が北海道大学理学部分析化学講座、神原富民教授のもとに大学院生となったのが昭和 39 年であり、当時分析化学は、真空管から半導体素子へと電子回路の飛躍的發展と相まって機器分析法へと移行する時代であった。各種クロマトグラフィー、原子吸光法、電気分析法など種々の改良が加えられて新手法が華々しく展開された時代である。理論の導出や新手法開発が、学生や若手研究者を引きつけたのである。分析化学分野においても他分野に負けず、大学内部で人的交流が活発で、小畑弥太郎先生（農）、永山政一先生、青村和夫先生、伊藤光臣先生（共に工）、木村道也先生（薬）、錫谷徹先生（医）、藁目清一郎先生（理・教養）、神原富民先生、藤本昌利先生（共に理）、松前鼎一先生（北開試）、西村雅吉先生（水産）などの先生方が活躍されていたのが思い出される。その他多くの先生が研究発表会や出版事業等で活躍され、これらの諸活動は他学会に先行していた。私が所属していた分析化学講座は他講座に負けずとても活発であり、徹夜で実験する院生も多くいた。実験室の夜間の暖房はガスストーブを使用するために、神原教授はガス中毒などの事故を大変気にされていたのを憶えている。分析化学講座の様子の一部を以下に示すことにしよう。配布資料などはガリ板による謄写印刷か、湿式法による青焼き複写であり、手間暇がかかるものであった。当時の手元にある研究発表案内文は、神原 富民先生直筆のもので、次のようなものである。



昭和 5 4 年 6 月 1 5 日

各位

神原 富民

拝啓 分析化学講座は近く第 3 0 0 回分析化学雑誌会を迎えることとなりましたので、下記要領により、講演会と懇親同窓会を開催したく、ご案内申し上げます。御出欠の程、(電話)(同封葉書)にて御知らせ下さい。

敬具

記

第 3 0 0 回分析化学雑誌会講演会

日時 7 月 7 日 (土) 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

場所 北大理学部 N 3 0 8 (改装されました)

講師と演題

1. 水質分析の話  
伊藤 八十男 氏 (道立衛研)
2. 環境アセスメント  
島崎 昭 氏 (北海道生活環境部)
3. 北海道における食品の有機塩素化合物による汚染について  
新山 和人 氏 (道立衛研)
4. アメリカの国立公園 R o c k y を中心にして  
長谷部 清 (北大教養部)

懇親会

日時 同日 1 7 : 0 0 より



きな支部では実行できない持て成しが、さほど大きくない北海道支部が故に実施できたことであったのかも知れない。この持て成しはいつの間にか消滅してしまい、どこにでもあ  
るスタイルへ逆戻りしてしまったのは少し心残りがする。「歴史は繰り返す」とは正にこの  
事かも知れません。分析化学を志す若人がまた発想を新たにして、次の50年に向けて発展  
されることを祈って止みません。まずは50周年おめでとうございます。

(藤女子大学大学院人間生活学研究科)